

教育理念

世界的課題の解決に挑む、「強さと品位」を持った人間を育てる

【ビジョン】

関西学院の使命は、キリスト教主義教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育み、世に輩出することにある。「世界市民」¹とは、他者と対話し共感する能力を身に付け、よりよい世界の創造に向けて責任を担う人々のことである。

関西学院には世界市民のモデルが二つある。一つは宣教師として医療を通じた伝道で世界各地を巡った W・R・ランバス初代院長そのものであり、もう一つは C・J・L・ベーツ初代学長（第4代院長）がプロテスタントの精神に基づいてスクールモットーとして表現した「ビジネスを通じて世界へ奉仕」する人材モデルである。国際貢献を含めた公共分野とビジネス分野それぞれで活躍する卒業生を数多く輩出するとともに、世界的な課題に挑み解決へと導く、「強さと品位」を持った真のグローバルリーダーを生み出すことが関西学院の理想である²。

150周年を迎える2039年は、少子化やAIの発達等に伴い、現在とは全く様子が異なった社会となることが予測される。そのような時代にあっても、すべての卒業生がスクールモットーを胸に、学び育んだ知識・能力、確固たる価値観や豊かな人間性によってさまざまな分野で活躍し、隣人・社会・世界に貢献することで「真に豊かな人生」を送ってほしい。関西学院に設置されている9つの学校³は、総合学園としての強みと国際性の高さを生かし、その理想の実現に総力をあげて取り組む。

¹ 「ランバス家の故郷ミシシッピ州には、一家の働きを記念する碑が建っています。そこには、“World Citizen and Christian Apostle to many lands”（世界市民であり、世界各地へのキリストの使徒）という句が刻まれています。『輝く自由』P.3,4「創立者ウォルター・ラッセル・ランバス 世界の足跡」参照。

² ベーツ高等部長（当時）は、「Our College Motto “Mastery for Service”（私たちの校訓「マスタリー・フォア・サービス」）」で、“We aim to be strong, to be masters.”（私たちは強くあること、“さまざまなことを自由に支配できる人” <マスター>になることを目指します）、“This then is our college motto, to become strong, effective men, not weak incompetents; men who will be recognized as masters.”（本校の理想は強くて役に立つ人になることであり、弱くて使いものにならない人になることではありません。それぞれがマスターとして認められる人になることです）とし、隣人・社会・世界に貢献するためにこそ、自ら研鑽し、強く有能になることを求めている。『輝く自由』P.7,8 参照。

また、関西学院大学体育会全体のモットーである「Noble Stubbornness」は、17世紀イギリスの詩人 J.ドライデンの詩にある表現で、「高貴な粘り」「品位ある不屈の精神」「気品の高い根性」等と訳され、強さと品位を併せ持つことを理想としている。『関西学院事典 増補改訂版』P.381 参照

校歌“A Song for Kwansei”（1949年作、エドモンド・ブランデン作詞）の歌詞においても「強さ」が強調されている。

In faith and thought, in song and game,	信仰にも思想にも、歌声にも競技にも、
Your love, your hope, your strength, your fame,	汝が愛を、望みを、力を、名声を
Still strong and true.	常に力強く誠もて

³ 関西学院の9つの学校とは、大学・大学院、聖和短大、高等部、中学部、千里国際高等部、千里国際中等部、大阪インターナショナルスクール、初等部、幼稚園である。